
品目別調査結果

- 福島県産米の生産量は、令和3年産は飼料用米等への転換により約10%減少したが、令和6年産より回復傾向にあり、令和7年産は震災以降過去最高の生産量を記録。
- 平成25年産以降、加工用米等の主食用米以外の割合が増加傾向にあったが、令和7年産では、平成25年と同程度の割合まで減少した。

福島県産米の生産量推移

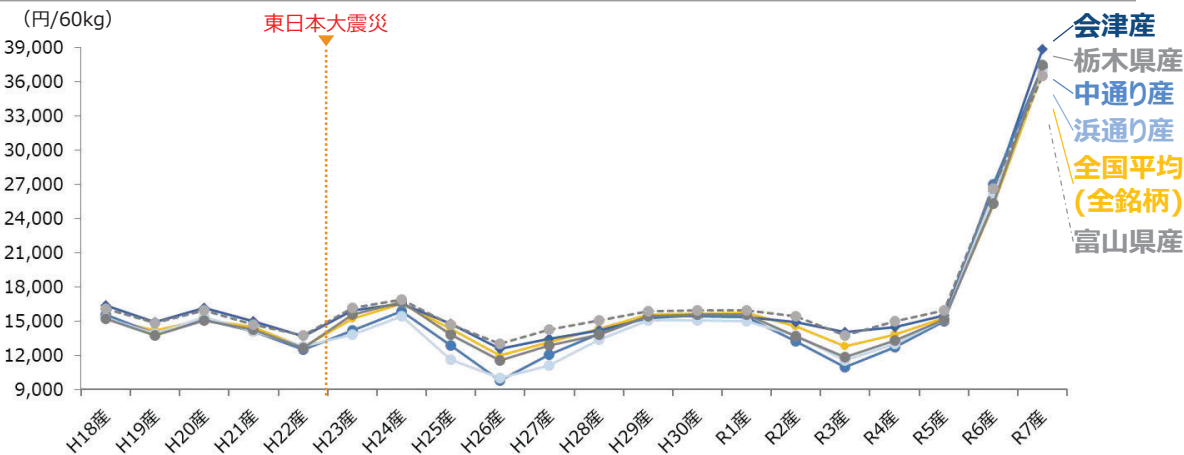


※水稲の収穫量の数値。生産量には「飼料用米」は含まない。
データ出所：農林水産省「作物統計」

福島県産米の相対取引価格の推移（概要調査）

- 会津産コシヒカリの相対取引価格は、震災後、富山県産コシヒカリと価格ポジションが逆転して以降、概ね下位にいたが、令和7年産では富山県産を大幅に上回った。また、栃木県産コシヒカリより概ね上位に位置している。
- 中通り産・浜通り産コシヒカリは、震災以前は栃木県産コシヒカリの価格ポジションと概ね同じであったが、震災直後に大きく差が広がった。令和7年産では、中通り産・浜通り産コシヒカリは栃木県産コシヒカリよりも下位に、富山県産コシヒカリよりは上位に位置している。
- 事業者へのヒアリングによると、令和7年度は、令和6年度と同様に米不足によって品種銘柄問わず米の需要があったことから、米全般の価格が令和6年度より、さらに上昇した。

会津・中通り・浜通り産コシヒカリと栃木県産・富山県産コシヒカリ、全国平均の相対取引価格推移

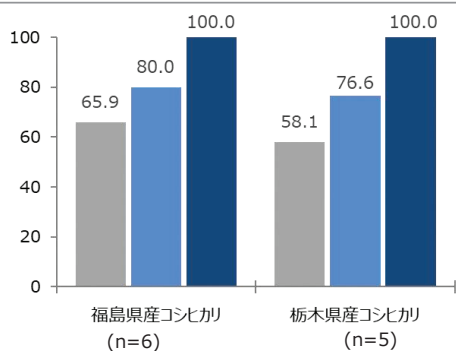


データ出所：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
※令和7年産は出回りから令和7年11月までの平均価格。

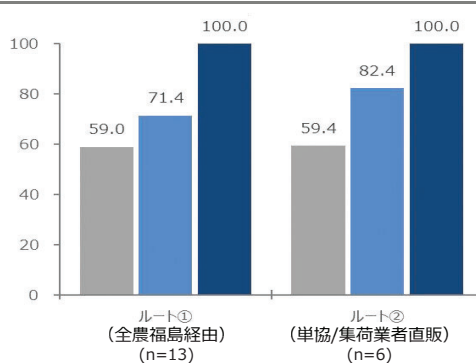
※出荷業者(年間玄米販売量5,000トン以上)と卸売業者などとの間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格を加重平均したもの。運賃(最寄りの大消費地への運賃。全農福島出荷分は平成27年産から運賃を含まない。)、包装代、消費税を含む価格。
※相対取引価格が低い平成22年産や26年産の時期には、民間在庫の増加や、出荷業者の販売数量の増加が生じていた。

- 福島県産コシヒカリと、栃木県産コシヒカリとの比較において、福島県産コシヒカリは小売販売価格に対して、集出荷業者の販売価格と卸売販売価格の割合が大きい結果となった。
- 福島県産米の産地からの出荷ルート別の比較では、「②単協/集荷業者直販」は米不足の影響を受け、高値で集荷した民間の集荷業者の事例が含まれることから、相対的に集出荷業者の販売価格がやや高い状況。
- 基本的に産地と卸間では、年度初めに取引価格を設定し通年契約を結ぶため、多くの令和6年産米の卸売販売価格は令和6年に設定された。一方、小売販売価格は物価を踏まえ適宜設定されるため、令和7年の米価高騰を踏まえた小売販売価格の上昇を受け、相対的に集出荷業者の販売価格がやや上がった。

米の価格形成 1（産地間比較）



米の価格形成 2（出荷ルート別比較）

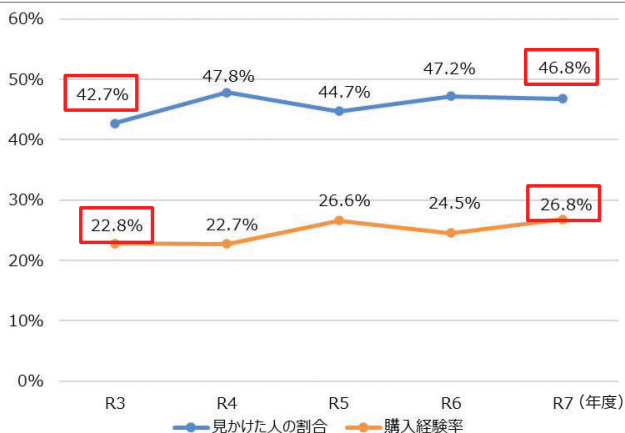


■ 集出荷業者の販売価格 ■ 卸売販売価格 ■ 小売販売価格
※数値はそれぞれの調査で、小売販売価格を100とした指数。

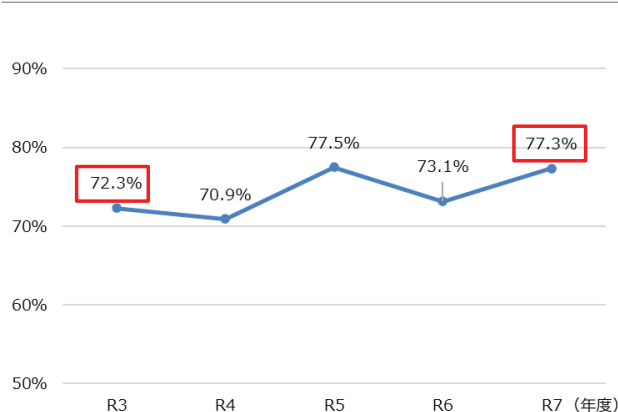
福島県産米を見た経験、購入経験と購入者の評価（消費者アンケート・経年比較）

- 令和3年度と令和7年度を比較すると、福島県産米を店頭で見かけた人の割合、購入経験率はそれぞれ4.1%、4.0%上昇した。
- 令和3年度と令和7年度を比較すると、福島県産米の評価について、「非常に良い」または「良い」と回答した人の割合は5.0%上昇した。

福島県産米を見かけた人の割合、購入経験率



福島県産米を高く評価している人の割合

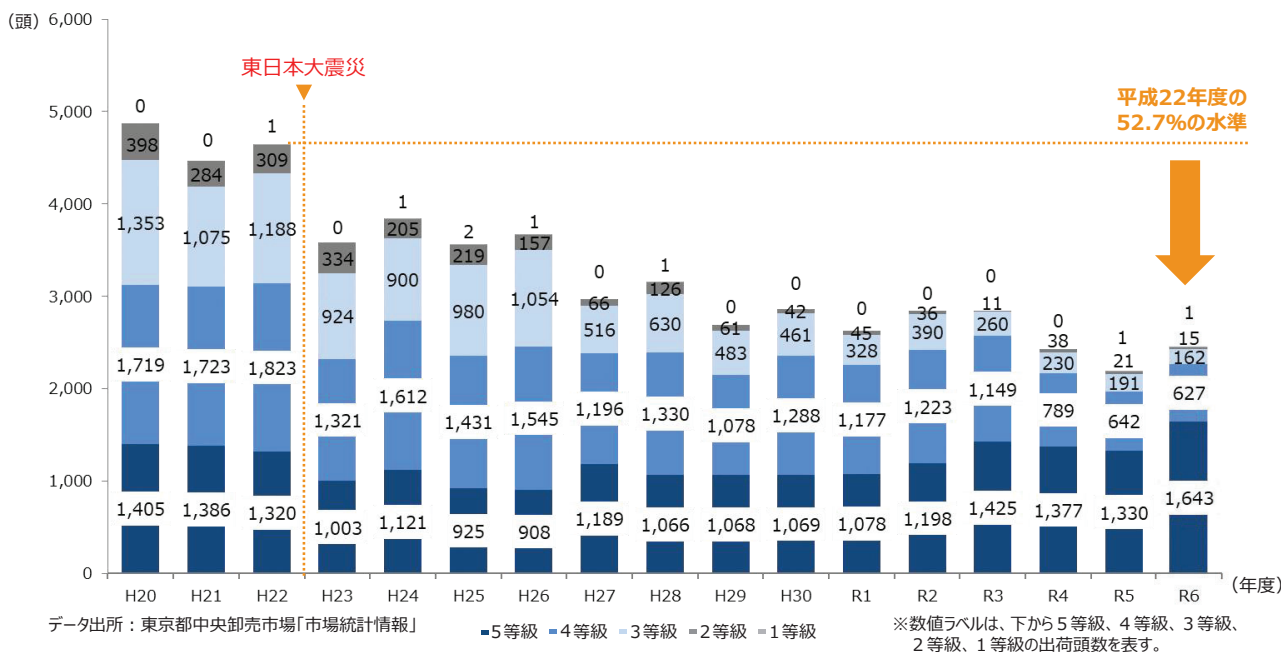


※見かけた人の割合は過去1～2年に、店頭で福島県産米を見た記憶を尋ねたもので、「よく見かけた」、「ときどき見かけた」を選択した者の割合の合計値。
※見かけた人の割合のnはR3:8,143、R4:3,885、R5:3,012、R6:2,825、R7:3,116。
nは「分からない」を選択した回答者を除いて算出。
※購入経験率=1度でも購入したことがある人数/回答者数
記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていたら購入経験なしとなる。
※購入経験率のnはR3:11,000、R4:5,500、R5:4,000、R6:4,000、R7:4,000。

※福島県産米を購入したことがある回答者のみに尋ねた質問。
※グラフ上の数値は「非常に良い」、「良い」を選択した者の割合の合計値。
※nはR3:2,508、R4:1,246、R5:1,065、R6:979、R7:1,071。

- 東京都中央卸売市場への福島県産和牛（去勢）の出荷頭数は、震災後、減少傾向で推移し、平成29年度以降は概ね横ばい傾向。
- 出荷頭数に占める上位等級（5等級・4等級）の割合は上昇傾向にあり、直近では90%前後と高い比率で推移。

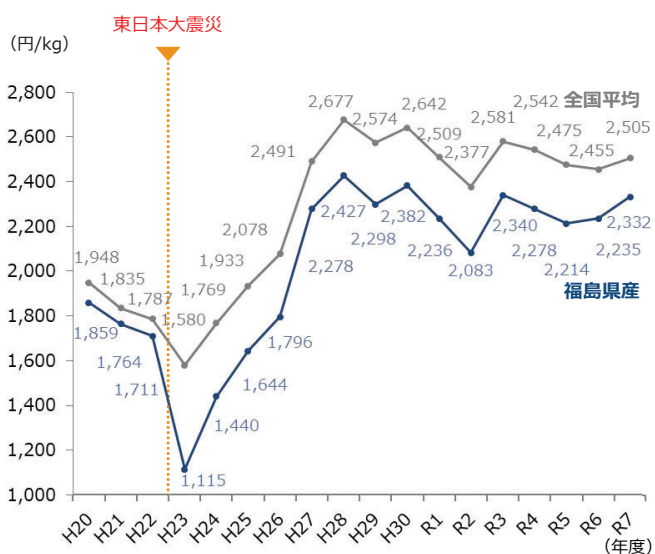
東京都中央卸売市場に対する出荷頭数の推移（福島県産和牛・去勢）



福島県産牛の枝肉の価格の概況（概要調査）

- 東京都中央卸売市場における福島県産和牛の枝肉価格は、震災直後に全国平均との差が拡大した。
- その後、平成27年度にかけて全国平均との価格差が縮まる動きが見られたものの、平成28年度以降は、-10%程度で推移していたが、令和7年度は-6.9%と回復傾向にある。

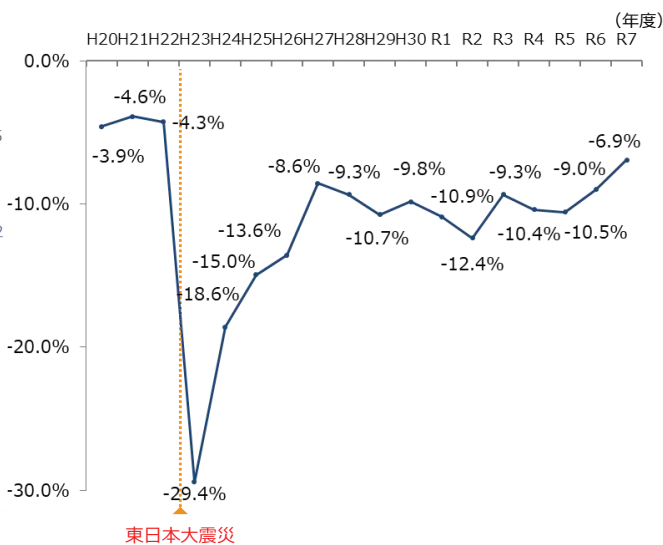
卸売市場平均価格推移（和牛全体）



※令和7年度は、令和7年12月までの実績を使用。

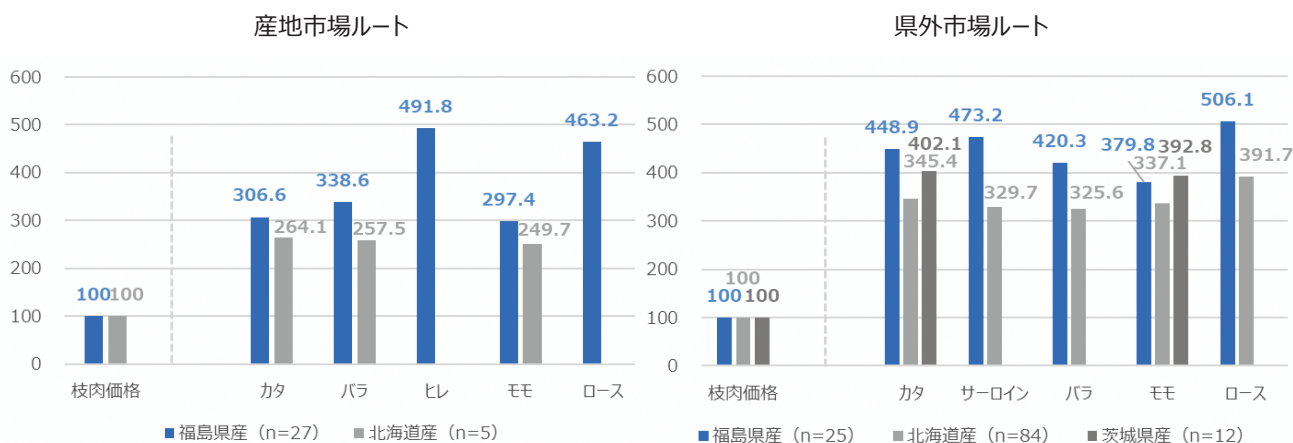
データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

全国平均との価格差推移（和牛全体）



- 牛肉について、枝肉価格と小売価格を収集し、枝肉価格を100としたときの小売価格を、部位ごとに産地市場ルートでは福島県産・北海道産で、県外市場ルートでは福島県産・北海道産・茨城県産で比較した。
- 産地市場ルートでは、福島県産は、北海道産より価格指数が高い傾向が見られた。
- 県外市場ルートでは、福島県産は、北海道産より価格指数が高く、茨城県産とは部位により価格指数の上下が異なる傾向が見られた。

福島県産和牛、北海道産和牛及び茨城県産和牛の枝肉価格と小売価格の比較

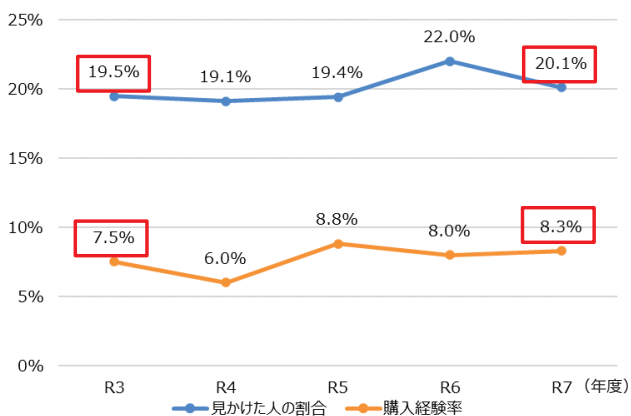


※数値はそれぞれの調査で、枝肉価格を100とした指数。枝肉価格は、福島県産和牛と北海道産和牛がほぼ同等で、茨城県産和牛はやや高い傾向にある。
 ※枝肉価格は、東京食肉市場における4月～12月の平均値とした。小売価格は、7月、9月、11月に調査した小売店などの価格の平均値を部位ごとに集計した。
 ※福島県産和牛、北海道産和牛及び茨城県産和牛のそれぞれのn数は、調査で収集できたアイテム数。

福島県産牛肉を見た経験、購入経験と購入者の評価（消費者アンケート・経年比較）

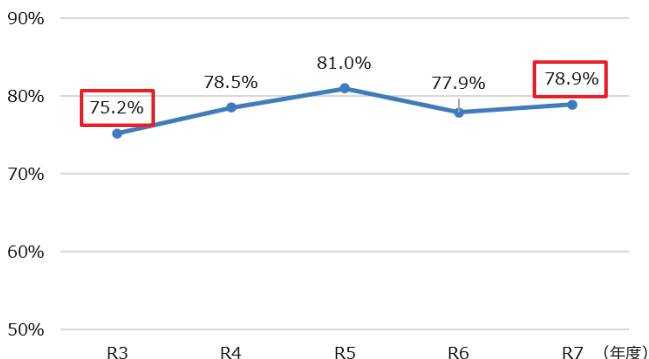
- 令和3年度と令和7年度を比較すると、福島県産牛肉を店頭で見かけた人の割合、購入経験率はそれぞれ0.6%、0.8%上昇した。
- 令和3年度と令和7年度を比較すると、福島県産牛肉の評価について、「非常に良い」または「良い」と回答した人の割合は3.7%上昇した。

福島県産牛肉を見かけた人の割合、購入経験率



※見かけた人の割合は過去1～2年に、店頭で福島県産牛肉を見た記憶を尋ねたもので、「よく見かけた」、「ときどき見かけた」を選択した者の割合の合計値。
 ※見かけた人の割合のnはR3:7,719、R4:3,643、R5:2,873、R6:2,608、R7:2,932。
 nは「分からない」を選択した回答者を除いて算出。
 ※購入経験率は1度でも購入したことがある人数/回答者数
 記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていたら購入経験なしとなる。
 ※購入経験率のnはR3:11,000、R4:5,500、R5:4,000、R6:4,000、R7:4,000。

福島県産牛肉を高く評価している人の割合

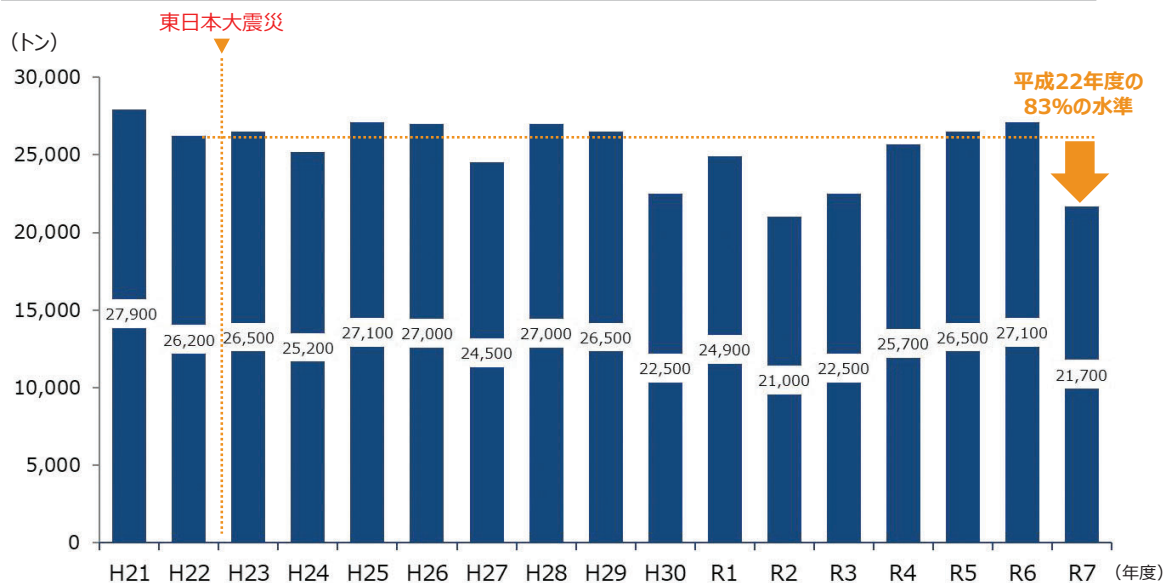


※福島県産牛肉を購入したことがある回答者のみに尋ねた質問。
 ※グラフ上の数値は「非常に良い」、「良い」を選択した者の割合の合計値。
 ※nはR3:822、R4:331、R5:353、R6:321、R7:331。

福島県産桃の出荷量の推移（概要調査）

- 福島県産桃の出荷量は震災以降、概ね横ばいに推移していた。令和2年度に出荷量が大きく減少し、その後回復傾向にあったが、令和7年度における福島県産桃の出荷量は、平成22年度の83%となった。

福島県産桃の出荷量の推移

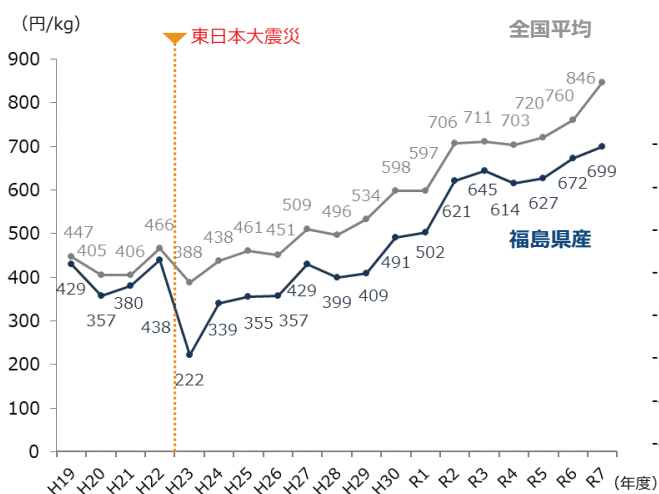


※令和2年度については、前年の台風による大雨の影響でもモモせん孔細菌病が発生したこと、7月の長雨、日照不足により果実の軟化が発生したこと等により、出荷量が減少した。
データ出所：農林水産省「果樹生産出荷統計」

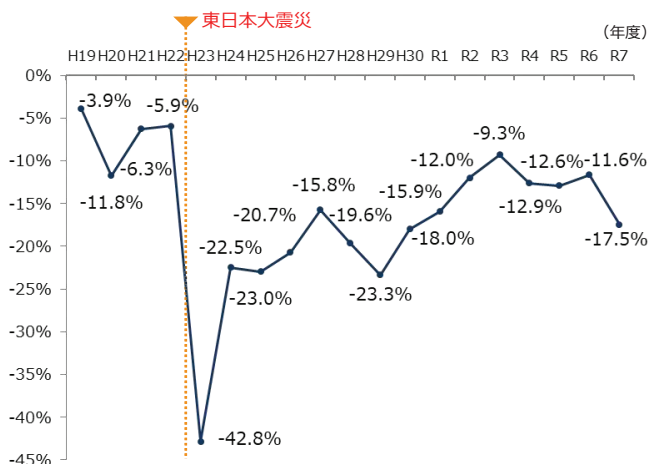
福島県産桃の価格の概況（概要調査）

- 東京都中央卸売市場における福島県産桃の平均単価は、震災直後に下落したが、その後は概ね上昇を続けている。震災後に大きくなった全国平均との価格差は縮小しているが、令和7年度は依然17.5%の差が生じている。

東京都中央卸売市場における平均単価の推移



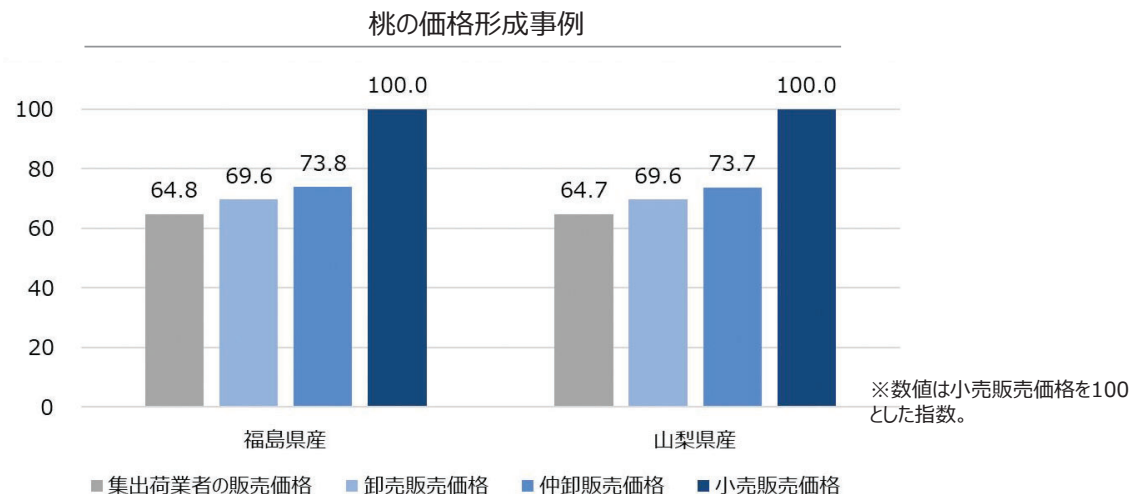
全国平均と福島県産の価格差の推移



※福島県産と全国平均の価格差を、全国平均の価格で割った値。
例えば、福島県産が全国平均より1割安ければ-10%となる。

データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」（7～9月の平均価格）

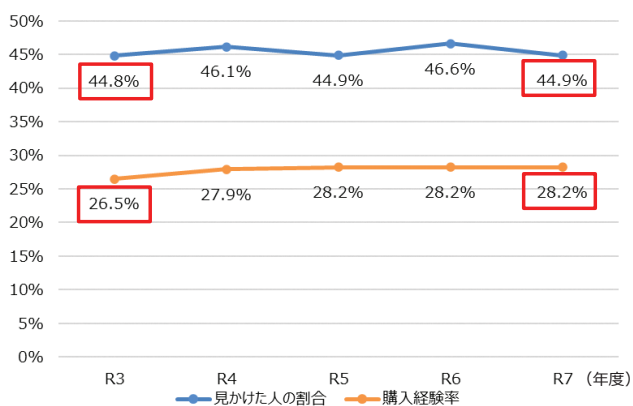
- 首都圏の小売業者が扱う桃の事例。
 - 福島県産と山梨県産で価格形成を比べると、集出荷業者の販売価格、卸売販売価格、仲卸販売価格における価格形成は、各段階で同等のマーゲンのせられており、両者で違いは見られなかった。
 - 小売業者によれば、山梨県産は出荷時期が他産地と比較して早く、桃全体の出荷量が少ない中で、各小売業者からの引き合いが強くなる為、福島県産と比較して多少高値がつく傾向にある。また、福島県産の出荷が始まる頃には、他産地の出荷も多く、桃全体の出荷量が多くなる為、価格が安定すること。



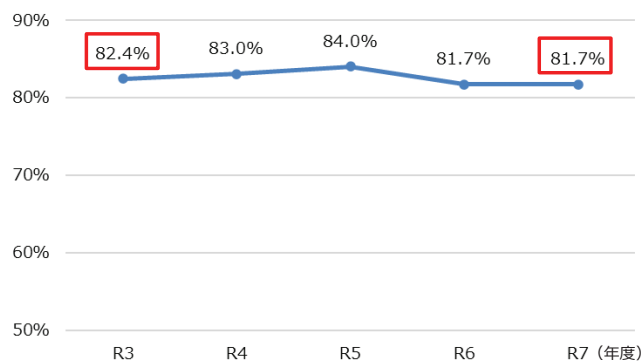
福島県産桃を見た経験、購入経験と購入者の評価（消費者アンケート・経年比較）

- 令和3年度と令和7年度を比較すると、福島県産桃を店頭で見かけた人の割合、購入経験率はそれぞれ0.1%、1.7%上昇した。
- 令和3年度と令和7年度を比較すると、福島県産桃の評価について、「非常に良い」または「良い」と回答した人の割合は0.7%下降した。

福島県産桃を見かけた人の割合、購入経験率



福島県産桃を高く評価している人の割合



※見かけた人の割合は過去1～2年に、店頭で福島県産桃を見た記憶を尋ねたもので、「よく見かけた」、「ときどき見かけた」を選択した者の割合の合計値。
 ※見かけた人の割合のnはR3:8,125、R4:3,840、R5:2,963、R6:2,795、R7:3,033。
 nは「分からない」を選択した回答者を除いて算出。
 ※購入経験率=1度でも購入したことがある人数/回答者数
 記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っただけは購入経験なしとなる。
 ※購入経験率のnはR3:11,000、R4:5,500、R5:4,000、R6:4,000、R7:4,000。

※福島県産桃を購入したことがある回答者のみに尋ねた質問。
 ※グラフ上の数値は「非常に良い」、「良い」を選択した者の割合の合計値。
 ※nはR3:2,914、R4:1,536、R5:1,129、R6:1,126、R7:1,261。